

第1回熊本地方会 活動報告

テーマ： 医師事務作業補助者の可能性を知り、未来を予測する

開催日時： 令和元年8月24日(土) 13:00～16:00 (受付 12:15～)

開催場所： 済生会熊本病院 外来がん治療センター4階



メイン会場： コンベンションホール

サブ会場： コングレスルーム (ライブ中継)

開会挨拶

済生会熊本病院 院長 中尾 浩一 先生

本日は熊本県内のみならず、県外からも多くの皆さんにお集まりいただきました。申込総数 303 名 80 施設と、医師事務作業補助業務に関する重要性が認知され、その関心の高さがうかがえます。また、医師事務と医療事務を目指す専門学校の皆さんも参加してくれています。学生の皆さんには、この会場の熱を感じてもらい、勉強への情熱に変えていただけると幸いです。医師事務作業補助者が「いかに治療に貢献できて、チーム医療の中でどのように活躍できるのか」そして、「どんな可能性があるのか」、ここにお集まりの皆さんのヒントになればと思います。



熊本地方会が「人とのつながり」を生み出すきっかけとなり、皆さんで知恵を出し合い、「医療の安全と質の向上」に貢献できる貴重な職種となっていたら幸いです。

本部挨拶

日本医師事務作業補助研究会 矢口 智子 理事長

医師事務作業補助者は、勤務医の負担軽減を目的に主に診断書等の文書作成業務から始まり、電子カルテの代行入力や検査等の代行オーダー、データ入力業務など、幅広く業務を行う職業に発展してまいりました。業務が拡大するにつれて、医師の負担軽減だけでなく、チーム医療推進に貢献する職種としての役割も果たすことができるようになってきました。そして今後は、医師の働き方改革実現に向けたタスクシフティング推進に貢献できる職種としての期待が高まっております。



当研究会は、医師事務作業補助者の実務能力向上、業務環境の改善、医師事務作業補助領域の開発及び普及による医師の質向上へ寄与することを目的に、9年間、活動を続けてきております。

熊本県でも、活発な勉強会を継続してまいりたいと思っていますので、本日の熊本地方会も、どうぞ最後までよろしくお願いいたします。

講演1 「医師事務作業補助者はいかに治療に貢献できるか」

座長：渡邊 健次郎 先生（菊池病院 院長）

講師：米満 弘一郎 先生（熊本機能病院 理事長）

熊本機能病院では、理念に基づいた病院経営、運営の達成のためにBSC（バランスト・スコアカード）というツールを用いて、「人材の成長・チーム力向上」→「医療プロセス、医療の質」→「患者・地域満足」→「経営の安定化」の視点に置き換え、院内全体で取り組んでいる。

医師事務作業補助課（当院ではメディカルクラーク課、以下 MC）がチーム医療に加わったことで、この4つの視点の全てにおいて改善が図られる結果となったと考える。

MC は、もはや医師事務の補助のみではなく、チーム医療の中で専門職の間の大切な橋渡し役や、患者さんや地域と医師との円滑な連携や信頼構築の重要な役割を担っており、今後さらなる業務進化が期待される場所である。



講演2 「チームで取り組む入院前リスク評価」 ～PERIO 外来における医療秘書の役割と新たな可能性～

座長：中村 純子 支部長（日本医師事務作業補助研究会 熊本県支部長）

講師：白井 純宏 先生（済生会熊本病院 包括診療部 医長）

済生会熊本病院では、「PERIO（ペリオ）チーム」という、術中・術後の急変リスクを低減するため、麻酔科と各診療科（主に外科系）をつなぐコンサルテーションチームがある。このチームは、ハイリスクの予定手術を対象に、術前の周術期外来と術中・術後のモニタリング（第三者的評価）を担う機能をもっている。

PERIO チームにおいても、医療秘書の位置づけはとても重要であり、「情報伝達」、「術前口腔ケア」、「麻酔支援」、「禁煙支援」の役割を持っている。

医療秘書活躍の新たな可能性として、周術期患者の外来から入退院までの継続的な支援を行うために、医療秘書の病棟への進出を期待している。



デモンストレーション 「事務自動化の可能性 RPA /ロボティック・プロセス・オートメーション」

協賛：株式会社 KIS

RPAとは「Robotic Process Automation /ロボティック・プロセス・オートメーション」の略語で、ホワイトカラーのデスクワーク（主に定型作業）を、パソコンの中にあるソフトウェア型のロボットが代行・自動化する概念である。

RPAという単語は耳にしたことはあるがRPAの深い知識は無いという方や、AIとRPAの違いや関係性が分からない、という方も、まだまだ多い段階である。今回、定型入力業務の自動化の様子を画面で紹介する。



パネルディスカッション 「事例紹介と施設基準管理」

- 前半** コーディネーター: 村上美紀 氏(済生会熊本病院)
パネリスト: 園田美樹 氏(熊本医療センター)、濱松佳那 氏(済生会みすみ病院)、村上紀子 氏(御幸病院)
- 後半** コーディネーター: 金田義延 氏(天草地域医療センター)
パネリスト: 松下洋一 氏(熊本機能病院)、豊田博信 氏(成尾整形外科病院)



会場にアンサーパッドを配布し、参加者に質問しながらリアルタイムで回答結果をスクリーンにグラフ表示させる「双方向型」パネルディスカッションを実施。 ※別紙「アンサーパッド集計結果」

閉会挨拶

日本医師事務作業補助研究会 熊本県支部 中村 純子 支部長

本日は第1回熊本地方会にお集まりいただき、ありがとうございました。

今年の1月に熊本県支部を設置し、初めての開催となりましたがいかがでしたでしょうか。至らない点多々あったかと思いますが、本日お集まりの皆様のおかげで無事に終えることができました。今回、これほど多くの方々にご参加いただき、医師事務作業補助業務への関心の高さや実務をされている方の意識の高さがうかがえ、大変嬉しく思っております。



来年度は熊本機能病院にて第2回熊本地方会の開催を予定しております。準備ができ次第、ご案内いたしますので、よろしくお願いいたします。

懇親会(情報交換会)

場所: 済生会熊本病院内レストラン



以上

報告者: 済生会熊本病院 垂水 治樹